

大学等名	清泉女子大学
プログラム名	清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件

③ 修了要件

プログラムを構成する「情報科学入門2」「数理リテラシー」「情報科学入門1b」の3科目4単位をすべて修得すること。

- 必要最低単位数 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
数理リテラシー	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
数理リテラシー	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
数理リテラシー	2	○	○	○					

⑦「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報科学入門2	1	○	○	○					
数理リテラシー	2	○	○						

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報科学入門1b	1	○	○	○	○						
数理リテラシー	2	○		○							

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット(「数理リテラシー」第1回、第2回、第7回) ・人間の知的活動とAIの関係性(「数理リテラシー」第1回、第2回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方(「数理リテラシー」第1回、第2回)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)(「数理リテラシー」第10回、第11回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・1次データ、2次データ、データのメタ化(「数理リテラシー」第4回) ・構造化データ、非構造化データ(画像/動画など)(「数理リテラシー」第4回) ・データのオープン化(オープンデータ)(「数理リテラシー」第6回)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(消費)(「数理リテラシー」第6回、第7回、第10回、第11回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(「数理リテラシー」第6回、第7回、第10回、第11回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など(「数理リテラシー」第6回、第7回、第10回、第11回)

(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など(「数理リテラシー」第12回) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ(「数理リテラシー」第1回、第2回)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)(「数理リテラシー」第10回、第11回、第12回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介(「数理リテラシー」第10回、第11回)
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)(「情報科学入門2」第5回、第6回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト(「情報科学入門2」第5回、第6回) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(「情報科学入門2」第5回、第6回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)(「情報科学入門2」第5回、第6回) ・AIサービスの責任論(「数理リテラシー」第8回、第9回) ・データ・AI活用における負の事例紹介(「数理リテラシー」第8回、第9回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性(「情報科学入門2」第3回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(「情報科学入門2」第3回、第4回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(「情報科学入門2」第5回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(「情報科学入門1b」第2回、第3回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)(「情報科学入門1b」第2回、第3回) ・データのばらつき(分散、標準偏差)(「情報科学入門1b」第2回、第3回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ)(「情報科学入門1b」第2回、第3回、第4回、「数理リテラシー」第12回) ・データの図表表現(チャート化)(「情報科学入門1b」第2回、第3回、第4回、「数理リテラシー」第12回) ・不適切なグラフ表現(不必要な視覚的要素)(「情報科学入門1b」第2回、第3回、第4回、「数理リテラシー」第12回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)(「情報科学入門1b」第2回、第3回、第4回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)(「情報科学入門1b」第2回、第3回、第4回) ・表形式のデータ(csv)(「情報科学入門1b」第2回、第3回、第4回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

自分のPCを適切に管理して、その意味を説明できる。
 情報システムが関わる社会問題とそれへの対応方法を説明できる。
 データ活用のために自分のPCを適切に管理し利用する。
 目的に応じてデータを検索・取得・整理・活用できる。
 データを適切に分析・解釈し、データを根拠として事実や意見を他人に説明できる。
 データ・AI活用の技術が、どのようなもので、社会でどのように活用されているかを説明できる
 データ・AI活用がもつ負の問題・課題を説明でき、その解決案を提案できる。
 データ・AI活用がどのように展開されるべきか検討できる。
 データ・AI活用の技術の基本を演習できる。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
日本語日文学科	350	80	320	4	0	4	4	0	4	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	4	1%						
英語英文学科	434	100	400	0	0	0	0	0	0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0%						
スペイン語スペイン文学科	205	50	200	0	0	0	0	0	0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0%						
文化史学科	449	100	400	3	0	3	3	0	3	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		3	1%							
地球市民学科	264	60	240	0	0	0	0	0	0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	0%						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
				0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0		0	0	#DIV/0!						
合計	1,702	390	1,560	7	0	7	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0%						

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

副学長(教学担当): 藤澤 秀幸

学務部長: 鈴木 卓

学務課長: 中川 裕二

プログラムの対象となる科目を担当する教員: 福田 健、斎藤 陽子

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	0%	令和5年度予定	3%	令和6年度予定	5%
令和7年度予定	35%	令和8年度予定	70%	収容定員(名)	1,560

具体的な計画

建学の精神に基づき、社会に貢献し国際的に活躍できる女性を養成する本学の教育方針の中に、数理・データサイエンス・AIリテラシーの育成を重要な社会的要請課題と位置づけ、効果的な学修環境を提供するため対面授業形式かつ少人数で丁寧な指導を行うこととし、令和4年度入学生より、1年次必修情報科学科目に、本教育プログラムの内容の一部を組み込み、1年次生全員が履修した。本教育プログラムを修了することで、就職活動等にデジタルバッジ(認定証)を示すことができることなどを学生用ポータルシステムを通して広報し、修了要件となる選択科目の履修を促進している。

令和5年度、6年度は、令和4年度の学生の履修状況及び学修成果をふまえて、教育・学修支援センターや全学科と連携して、学生の履修をサポートし、本教育プログラムの履修促進を図る。就職課とも連携して、本教育プログラムに対する企業ニーズについての学生の理解を深め、モチベーションを高めて、履修を促進していく。

令和7年度入学生より年次進行で、現在希望者のみが履修する選択科目としている「数理リテラシー」の履修を必修化し、本教育プログラムを履修必須とする計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムの科目は、全学的な組織である清泉女子大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会の管理の下に、全学共通科目である共通科目(情報科学科目)もしくは共通科目(教養科目)として開講しており、学科に関係なく履修可能となっている。本教育プログラムを構成する3科目のうち2科目は、令和4年度入学生より履修必須科目としており、年次進行で全学生が履修することとなっている。現在希望者のみ履修する選択科目「数理リテラシー」について、令和7年度より年次進行で履修を必修とする計画であるが、令和5、6年度は、全学科の学生が履修しやすいように、担当教員を増員してクラス数を増やし、時間割編成上も配慮する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学生が毎日必ず確認することになっている清泉ポータルシステム、および、LMSに本教育プログラムの趣旨や修了要件、履修方法などの詳細を掲載し、周知している。本教育プログラムを構成する1年次生対象の履修必須科目「情報科学入門1b」において本教育プログラムを紹介し、担当教員が履修相談を受ける体制をとっている。

令和5年度以降は、毎年度に実施する学年ガイダンスにおいて、本教育プログラムの趣旨や履修方法などについて周知するとともに、履修相談期間を設けて科目を担当する専任教員が履修相談に応じる。本学では、グループアドバイザーとよばれる所属学科教員を配置して、全学生との面談を実施しており、そうした際にも本教育プログラムについて周知する。また、就職ガイダンス等を通じ、本教育プログラムに対する企業ニーズや、修了者に与えられるデジタルバッジ(認定証)を就職活動で示すことができることなどについても周知する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、清泉女子大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会が中心となり、各学科および、学修サポートを担当する学務課、教育・学修支援センター、情報環境センター等と連携し、本教育プログラムの履修を促進するための情報提供及び履修相談に応じる体制を整えている。

また本学では、数理・データサイエンス・AI領域に苦手意識をもつ学生が少なからずいるため、対面授業により学生の状況を把握し、個々の学生の状況に応じた指導を行うこととしている。本教育プログラム履修必修科目の「情報科学入門1b」およびその前段階のコンピュータ操作及びネットワーク等を扱う「情報科学入門1a」では、一般クラスに加えて少人数で開講される基礎クラスを設けて指導し、すべての学生が本教育プログラムの修了要件である選択科目の履修に前向きに進めるように取り組んでいる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本教育プログラムの授業について、学習教材や課題はLMSに蓄積され、履修者は、LMSを通して授業時間以外にいつでも科目担当者に質問することが可能となっており、質問は科目担当者のメールに転送され、担当者から直接返答する体制を整備している。

科目担当専任教員は、授業期間中毎週1・2コマのオフィスアワーを設けることとしており、教員研究室での対面あるいはオンラインにより、授業内容や課題について質問を受け付け、指導する体制を整えている。

情報科学教育を支援する役割を担う情報環境センターにおいて、基本的なコンピュータ操作やBYOD環境構築等に関するサポートを行っている。また、教育・学修支援センターにラーニングアドバイザーが配置されており、課題などの相談に応じる体制を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

清泉女子大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会	
(責任者名) 藤澤 秀幸	(役職名) 副学長(教学担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムは、必修科目2科目と選択科目1科目の3科目から構成されている。従って、本教育プログラムを修得しようとする学生は、3科目のうちの選択科目1科目を積極的・意識的に履修登録する必要がある。2022年度は、本教育プログラムの位置づけや履修方法を学生に説明する機会が限られていたため、左記の選択科目を履修登録した学生が10名以下にとどまっていた。</p> <p>そこで、2023年度は、4月初頭に行われる学年ごとのガイダンスなどで、本教育プログラムの紹介と具体的履修方法の説明を行い、それによって多くの履修者を得ることを目指す。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムを構成する3科目は、いずれも、履修登録者に占める単位修得者の割合が9割を超えている。従って、シラバス上の到達目標に鑑みた履修者の学修成果は所定の水準に達していると判断できる。その一方で、本教育プログラムを構成する3科目のうち必修2科目は複数クラスから構成されていて4名の教員が分担担当しているために、クラスごとに課題の詳細や成績評価の基準が異なっており、結果的に全クラスを通しての学修成果の評価検討が困難になっている。</p> <p>そこで、2023年度は、複数クラスから構成される授業科目について、学修成果を統一的に確認する方法を検討・開発することを目指す。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>本教育プログラムを構成する3科目は、いずれも本教育プログラムに必須とされる内容やレベルを超えた授業内容が含まれている。そのため、現在実施されている授業評価アンケートにある「授業内容を理解できたか」という指標が、この教育プログラムの内容に特化した理解度を確認する手段としてはふさわしくない状態になっている。</p> <p>そこで、2023年度は、本教育プログラムを構成する3科目の授業評価アンケートにおいて、この教育プログラムの内容に特化した指標・設問を検討・開発しそれを試行することを目指す。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>2022年度においては、本教育プログラムの意義や科目構成について十分な説明が学生に届いていなかった。そのため、各履修者が他の学生に履修を勧めるかどうかという意識を確認する前提条件がないと思われ、それを調査していない。</p> <p>そこで、2023年度は、本教育プログラムの意義や科目構成について十分な説明を行うこととあわせて、履修者が「他の学生に履修を勧めるか」について調査することを目指す。</p>

<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>2022年度は、本教育プログラムを構成する3科目のうち選択科目については、履修者数が10名以下と限られていた。2023年度は、左記の選択科目の履修者を増やす方策を採るため、その授業内容・方法についても、多くの履修者に対応するものとなるよう準備することとする。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>2022年度末時点では、本教育プログラムの各科目を履修した学生は1年次生のみである。そのため、相当する学生のキャリア意識を調査することは困難であり、また、本教育プログラムを修得した卒業者に対する社会からの評価を調査することも不可能な状態である。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>2022年度末時点では、本教育プログラムの内容・手法等について学外から意見を聴取していない。そこで、2023年度は、本教育プログラムの内容・手法等について学外からの意見を聴取するために、どのような具体的な方法が適切・可能であるかを検討し、可能な範囲でそれを実現することを目指す。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>履修者が経験しているAI・データサイエンスの事例の背景・仕組みを、授業において詳細に実演・提示することによって、履修者の集中度や関心が高まったり課題に意欲的に取組むようになったという事例が授業担当教員より報告された。そこで、2023年度は、本教育プログラムを構成する各授業科目において、履修者が経験している関連事例をより多く取り上げることを目指す。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>対象3科目を履修する上で前提要件となる数量スキルについて、十分な学力をもたない履修者が散見されるという事実が授業担当教員から報告された。そこで、2023年度は、各授業が開始される前に、本教育プログラムの履修に必要なとされる数量スキルを履修者が修得しているかどうか確認し、必要に応じてそれらを再学習するための学習教材を示すことを目指す。</p>

シラバス参照

科目	情報科学入門2 (1)グループ
開講科目群	情報科学
履修	必修
年次	1
単位	1
開講科目ID	SGI10101
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限
教職課程との対応	
教員氏名	福田 健(フクダ タケシ)
備考	

授業テーマ Course Theme	自分の情報環境を社会の中で適切に認識して管理して活用の可能性を広げる。
授業概要 Course Outline	この授業では、BYOD PCやスマートホンを初めとする日常を取り巻く情報環境の設定・利用から発信される情報を把握して、その影響を考え、さらに、それを適切に制御する方法を学ぶ。 自分のBYOD PCを持参する必要がある授業日があることに注意すること。 この授業科目は「数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」（リテラシーレベル）を構成する科目となることを目指して授業内容が設定されている。その認定結果は2023年度中に判明し、それが認定された場合には、この授業科目とあわせて2022年度以後開講の「情報科学入門1b」「数理リテラシー」の単位を修得することで、左記教育プログラムを修得したことを示すことができる。これらの詳細は2023年度中に学内に広報されるので注意すること。
学生が授業内で PCを使用する 科目	yes
実務経験のある 教員による科 目	yes
実務経験との 関連 (経験ありの 場合のみ)	民間教育機関における教科指導と教材開発
英語で授業を 行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no)	no

<p>課題解決型学習を取り入れている科目 Problem-solving learning method is used in class (yes/no)</p>	<p>no</p>
<p>討議（ディスカッション、ディベート）を取り入れている科目 There are discussions/debates in class (yes/no)</p>	<p>no</p>
<p>グループワークを取り入れている科目 There are group works in class (yes/no)</p>	<p>no</p>
<p>発表（プレゼンテーション）を取り入れている科目 There are presentations in class (yes/no)</p>	<p>no</p>
<p>フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている科目 There are fieldworks/training/experiments/practices in class (yes/no)</p>	<p>yes</p>
<p>到達目標 Aim/goal</p>	<p>自分のPCを適切に管理して、その意味を説明できる。 情報システムが関わる社会問題とそれへの対応方法を説明できる。</p>
<p>授業計画 Course Plan</p>	<p>第1回 学内LANの仕組みと利用規則を理解する。BYOD PCの設定を確認する。</p> <p>第2回 URL、ドメイン名、IPアドレスの意味と関係を読み取る。</p> <p>第3回 セキュリティの基本的な考え方を知り、自分のPCについてそれに合致する設定を行い利用をする。</p> <p>第4回 社会における情報セキュリティの問題と対応方法を知る。</p> <p>第5回 個人情報、IoT、ビッグデータの扱いと責任論を考える。</p> <p>第6回 まとめと振り返り。</p> <p>第7回 試験内容の予告と試験(補講期間)</p>

<p>授業以外の学修 What Students are expected to do outside of the class</p>	<p>授業時間内に行った小テストの内容を確認し、不明の点を次回授業で質問できるようにする。 講義内容で不明の点がある場合、および、欠席した場合には、授業のWebページを閲覧して、授業ビデオの閲覧、および、課題の解説を確認する。 自分のBYOD PCに対して設定内容を確認したり変更したりしてその影響を確認する。</p>
<p>評価方法 Evaluation</p>	<p>授業への参加（授業ビデオ中で課される課題への取り組み・提出を含む）：50% 授業時間外のコメント提出：30% 最終課題：20%</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 Feedback methods on assignments</p>	<p>LMS内教材の解説による。</p>
<p>履修前提要件 Prerequisites</p>	<p>「情報科学入門1a」（旧カリキュラム「情報科学入門」）を、並行して履修するか、既に、単位修得しているか、単位認定されていること。 jWindows PCを用いて授業に参加すること。(Macは不可)</p>
<p>関連するディプロマポリシー</p>	
<p>使用テキスト Textbook to be used, if any</p>	
<p>必ず読まなければならない本や文献（購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト） Required books or materials (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.)</p>	
<p>読むことを推奨する本や文献（購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト） Recommended books or materials, if</p>	

any. (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.)	
テキストに関する連絡事項 Remarks concerning the text book, if any	
更新日付	2022/08/29 13:23

シラバス参照

科目	数理リテラシー
開講科目群	教養
履修	選択
年次	1～4
単位	2
開講科目ID	SGL13851
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限
教職課程との対応	
教員氏名	福田 健(フクダ タケン)
備考	

授業テーマ Course Theme	データ・AI利活用の技術と社会におけるその展開
授業概要 Course Outline	<p>データ・AI利活用の技術は、それに関わるつもりがない人の生活においてさえ、何気なく組み込まれている。立場を変えて、社会で実務を担うときには、必ずやそうした技術を手段として活用しながら目標を達成することになる。そうしたなかで、人としての自分がデータ・AI利活用に対して主体的に考えて判断するためには、その技術を知り、その活用のあり方を知り、人や社会の問題を正しく認識することが必要となる。</p> <p>この授業では、そうした技術と活用と社会問題の学びを統合しながら、社会におけるデータ・AI活用のあるべき姿を探っていく。この授業科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」（リテラシーレベル）を構成する科目となることを目指して授業内容が設定されている。その認定結果は2023年度中に判明し、それが認定された場合には、この授業科目とあわせて2022年度以後開講の「情報科学入門2」「情報科学入門1b」の単位を修得することで、左記教育プログラムを修得したことを示すことができる。これらの詳細は2023年度中に学内に広報されるので注意すること。</p>
学生が授業内で PCを使用する 科目	yes
実務経験のある 教員による科目	no
実務経験との 関連 (経験ありの 場合のみ)	
英語で授業を 行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no)	no

<p>課題解決型学習を取り入れている科目 Problem-solving learning method is used in class (yes/no)</p>	<p>yes</p>
<p>討議（ディスカッション、ディベート）を取り入れている科目 There are discussions/debates in class (yes/no)</p>	<p>yes</p>
<p>グループワークを取り入れている科目 There are group works in class (yes/no)</p>	<p>yes</p>
<p>発表（プレゼンテーション）を取り入れている科目 There are presentations in class (yes/no)</p>	<p>yes</p>
<p>フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている科目 There are fieldworks/training/experiments/practices in class (yes/no)</p>	<p>no</p>
<p>到達目標 Aim/goal</p>	<p>データ活用・AIの技術がどのようなものか説明できる データ活用・AIが社会でどのように活用されているか説明できる データ活用・AIがもつ負の問題・課題を説明できその解決案を提案できる データ活用・AIがどのように展開されるべきか設計できる データ活用・AIの技術の基本を演習できる</p>
<p>授業計画 Course Plan</p>	<p>第1回 データ・AI活用におけるAIと人間の比較(1)AIによる知的振る舞い。 第2回 データ・AI活用におけるAIと人間の比較(2)人による知的振る舞い。 第3回 データ・AI活用を支える基本技術(1)システムを構成する手続き。 第4回 データ・AI活用を支える基本技術(2)システムを構成するデータ。 第5回 データ・AI活用を支える基本技術(3)システムの構成と学習の仕組み。 第6回 社会で活用されるデータ。</p>

	<p>第7回 データ・AI活用が社会に及ぼす影響。</p> <p>第8回 データ・AI活用の問題点。</p> <p>第9回 データ・AI活用と社会制度。</p> <p>第10回 データ・AI活用の事例を考える(1)課題を整理する。</p> <p>第11回 データ・AI活用の事例を考える(2)提案して議論する。</p> <p>第12回 データを使って発見・判断・解釈する。</p> <p>第13回 社会における解決したい課題と未来の設計を考える、まとめと振り返り。</p>
<p>授業以外の学修</p> <p>What Students are expected to do outside of the class</p>	<p>授業後にPCを活用した演習や情報検索が求められる。</p> <p>授業後半では、グループ単位での問題解決活動(授業時間外にも活動する)が設定される。4年次生では、その時期が卒業論文・卒業レポート執筆の時期と重複する可能性が高い。それを前提に履修登録すること。グループ活動に積極的に参加しないと、単位修得できない可能性がある。</p>
<p>評価方法</p> <p>Evaluation</p>	<p>授業への出席と参加 40%</p> <p>グループによる問題解決活動と発表 20%</p> <p>レポート課題 40%</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>Feedback methods on assignments</p>	<p>授業期間内に発表やレポート提出が課されるので、それに対して最終回授業までに教員がコメントする。</p>
<p>履修前提要件</p> <p>Prerequisites</p>	<p>ExcelとPowerPointの基本操作が求められる。</p> <p>Excelについては、計算式(基本的な関数を含む)を用いて計算結果を表示したり、表から基本的なグラフを作成したりできることが求められる。その修得に必要なオンデマンドビデオなどの教材が授業時に紹介されるので、必要な人は授業期間前半のうちに自習することが求められる。</p>
<p>関連するディプロマポリシー</p>	
<p>使用テキスト</p> <p>Textbook to be used, if any</p>	
<p>必ず読まなければならない本や文献（購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト）</p> <p>Required books or materials (No purchase necessary, but students need to</p>	

refer to them at places like libraries.)	
読むことを推奨する本や文献（購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト） Recommended books or materials, if any. (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.)	
テキストに関する連絡事項 Remarks concerning the text book, if any	授業開始後に教科書(2000~3000円を想定)が指定される可能性がある。
更新日付	2022/10/21 08:00

シラバス参照

科目	情報科学入門1b (1)グループ
開講科目群	情報科学
履修	必修
年次	1
単位	1
開講科目ID	SGI10051
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限
教職課程との対応	
教員氏名	福田 健(フクダ タケシ)
備考	

授業テーマ Course Theme	適切に設定されたBYOD PCを活用して、実社会のデータを表現したり変換したりするとともに、それを活用して問題解決したり判断したりするためのスキルを身につける。
授業概要 Course Outline	データ活用のための基本スキルとして、データの整理、表からグラフの変換、グラフ種類の選択、データと主張との関係、などを、社会の実統計データを用いて学ぶ。これらは、文科系の学びや社会活動の中でも必要とされるデータリテラシーである。
学生が授業内で PCを使用する 科目	yes
実務経験のある 教員による科目	no
実務経験との 関連 (経験ありの 場合のみ)	
英語で授業を 行う科目 Whether this class will be conducted all in English (yes/no)	no
課題解決型学 習を取り入れ ている科目 Problem- solving learning	yes

method is used in class (yes/no)	
<p>討議（ディスカッション、ディベート）を取り入れている科目 There are discussions/debates in class (yes/no)</p>	no
<p>グループワークを取り入れている科目 There are group works in class (yes/no)</p>	yes
<p>発表（プレゼンテーション）を取り入れている科目 There are presentations in class (yes/no)</p>	yes
<p>フィールドワーク、実習、実験、実技を取り入れている科目 There are fieldworks/training/experiments/practices in class (yes/no)</p>	yes
<p>到達目標 Aim/goal</p>	<p>自分のPCを用いて必要なデータを検索・取得・整理・活用できる。 自分のPC上でデータを参照しながら事実や意見を他人に説明できる。</p>
<p>授業計画 Course Plan</p>	<p>第1回 統計データを扱うBYOD PCの環境を整備する。 統計データを扱うExcelの基本操作を学ぶ。</p> <p>第2回 Excel上で統計データの表を編集する。 統計データを解釈する。</p> <p>第3回 統計データを検索して取得する。 Excel上で統計データの表をグラフに変換する。 表とグラフを適切に使い分ける。 複数の統計データを比較・計算する。</p> <p>第4回 統計データを用いて社会の出来事を説明する。 プレゼンテーションを設計する。</p> <p>第5回 自分の判断・意見をプレゼンテーションする。</p> <p>第6回 自分の判断・意見をプレゼンテーションする。</p> <p>第7回 まとめと振り返り(0.5回分)</p>

<p>授業以外の学修 What Students are expected to do outside of the class</p>	<p>授業時間に扱った実習課題の一部は、授業時間外に行うことが求められる。欠席時には授業のWebページ（学びの泉）を閲覧してその内容に従うこと。</p>
<p>評価方法 Evaluation</p>	<p>授業への出席と授業時間内の実習への取り組み 50% 授業前後の実習課題への取り組み 50% ただし、上記2項目それぞれについて、単位修得のための最低条件が別途設定される。 単位修得の基礎条件として三分の二（原則として授業4回分）以上の出席を必要とする。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 Feedback methods on assignments</p>	<p>授業時間中の発表に対するコメント、および、学びの泉を通して個別連絡、のいずれか、または、両方によって行う。</p>
<p>履修前提要件 Prerequisites</p>	<p>前期・夏季集中「情報科学入門1a」の単位を修得していないと、この授業は履修できない(履修登録が抹消される)。 「情報科学入門1a」の単位を修得しているが、今年度後期「情報科学入門1b」の単位を修得しなかった場合、次年度以後に「情報科学入門1b」を履修登録する際、履修登録できるクラスが制限される可能性がある。</p>
<p>関連するディプロマポリシー</p>	
<p>使用テキスト Textbook to be used, if any</p>	
<p>必ず読まなければならない本や文献（購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト） Required books or materials (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.)</p>	
<p>読むことを推奨する本や文献（購入する必要はないが、図書館等で参照を要するテキスト） Recommended books or</p>	

<p>materials, if any. (No purchase necessary, but students need to refer to them at places like libraries.)</p>	
<p>テキストに関する連絡事項 Remarks concerning the text book, if any</p>	<p>学びの泉内の、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報科学入門1a/1b」クラス共通 ・「情報科学入門1b」
<p>更新日付</p>	<p>2023/01/18 16:42</p>

学生要覧

2022

令和4年度



学 専	科 攻 名		学 年	年 次
氏 名				

清泉女子大学

文 学 部

大 学 院

目次

2022(令和4)年度 学年暦・学事日程	2
建学の精神、沿革	9
学籍	25
1. 学籍（文学部）	26
2. 学籍（大学院）	31
学生生活	35
1. 開校時間、授業時間、事務取扱時間	36
2. 事務	37
3. 施設	43
4. 学生支援・学生相談	47
5. 奨学金制度、生活支援	51
6. クラブ活動	55
7. クラブ活動等による施設の使用	60
8. 緊急事態	61
9. 就職	63
10. 個人情報保護、その他	65
履修（文学部）	67
1. 履修の基本	68
2. 履修の手続き	77
3. 授業	84
4. 試験	85
5. 成績評価	87
6. 国外留学、海外研修、国内留学	90
履修要項（文学部）（2021(令和3)年度以後入学者）	93
1. 共通科目（建学の精神）	94
2. 共通科目（初年次教育）	95
3. 共通科目（英語）	96
4. 共通科目（英語以外の外国語）	99
5. 共通科目（情報科学）	100
6. 共通科目（心身の健康）	102
7. 共通科目（教養科目）	103
8. 共通科目（キャリア教育）	105
9. 日本語日本文学科	106
10. 英語英文学科	108
11. スペイン語スペイン文学科	113
12. 文化史学科	117
13. 地球市民学科	120

1 履修の基本

授業のとり方—自分の時間割は自分で作る

2021(令和3)年度以後入学者

高校までは、ほとんどの場合あらかじめ時間割が決まっています、生徒はその時間割に従うだけである。時間割は学校が決めるものであって、自分自身で選択する余地は、たとえあったとしてもごく一部だけである。

これに対して、大学では、自分の時間割は自分で決めるのが基本である。学生一人一人が、自分の知的関心や勉強・研究の目的に合わせて授業を選ぶことが大切なのである。したがって、大学で勉強を進める際には、まず、どのように授業をとるかを自分できちんと決めることからはじめなければならない。

授業の選び方には大学が定めた一定の枠組とルールがある。

たとえば、専門的な勉強をする基礎となる知識・技能や、幅広い教養、深い人間観など、すべての学生が身につけるべきことと関する授業は、すべての学生が受ける必要がある。このような、必ず受けなければならない授業を「必修科目」と呼ぶ。一方、受けるか受けないかの決定が学生一人一人にゆだねられている授業を「選択科目」と呼ぶ。

また、学問は体系的なものであるから、順序正しく学んでいかなければならない。手当たり次第に授業を受けては、内容を正しく学ぶことはできない。そのため、授業を受ける学年や受ける順序が決められている場合も多い。このような制限を「年次指定」という。

大学生は、自己、人間、社会などについて深く思索し、健康で豊かな人間性をはぐくむ必要がある。そのために、本学には、各学科等の「専門科目」の他に、**全学科共通の「共通科目」がある。「共通科目」は、「建学の精神」科目、初年次教育科目、外国語科目、情報科学科目、「心身の健康」科目、教養科目、キャリア教育科目、資格課程科目の8分野から構成されており、それぞれ一定の授業を受けるように定められている。**これらの分野ごとの授業のまとまりを「科目群」と呼ぶ。

以上をまとめると、本学で勉強する際には、「必修科目」「選択科目」の区別に注意しながら、各「科目群」の授業を定められた「年次」に受け、後述する卒業に必要な「単位」を取ることができるように、自分の時間割を自分で組み立てる必要がある、ということになる。

なお、ここまでの説明では、「授業を受ける」という言い方をしたが、きちんとした手続きにもとづいて授業を受けることを「科目を履修する」と呼ぶ。また、試験・レポートなどに合格して「単位を得る」ことを「単位を修得」する、「科目を修得」するという。

2020(令和2)年度以前入学者

高校までは、ほとんどの場合あらかじめ時間割が決まっています、生徒はその時間割に従うだけである。時間割は学校が決めるものであって、自分自身で選択する余地は、たとえあったとしてもごく一部だけである。

これに対して、大学では、自分の時間割は自分で決めるのが基本である。学生一人一人が、自分の知的関心や勉強・研究の目的に合わせて授業を選ぶことが大切なのである。したがって、大学で勉強を進める際には、まず、どのように授業をとるかを自分できちんと決めることからはじめなければならない。

授業の選び方には大学が定めた一定の枠組とルールがある。

たとえば、専門的な勉強をする基礎となる知識・技能や、幅広い教養、深い人間観など、すべての学生が身につけるべきことと関する授業は、すべての学生が受ける必要がある。このような、必ず受けなければならない授業を「必修科目」と呼ぶ。一方、受けるか受けないかの決定が学生一人一人にゆだねられている授業を「選択科目」と呼ぶ。

科目群

2021(令和3)年度以後入学者

本学文学部の科目は、「共通科目」と「専門科目」に大別される。

「共通科目」は次の8つの科目群で構成されている。

- ①「建学の精神」科目
- ②初年次教育科目
- ③外国語科目
- ④情報科学科目
- ⑤「心身の健康」科目
- ⑥教養科目
- ⑦キャリア教育科目
- ⑧資格課程科目

「専門科目」は次の各学科の専門科目で構成されている。

- 日本語日本文学科専門科目
- 英語英文学科専門科目
- スペイン語スペイン文学科専門科目
- 文化史学科専門科目
- 地球市民学科専門科目

「建学の精神」科目

清泉女子大学の建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムについて学ぶ。そこで過ごす4年間を実り豊かなものとし、また、学問と現実の諸問題に真に取り組むことのできる人格形成に寄与することを目標とする。

初年次教育科目

高校の学習から大学の学修への速やかな移行を支援する1年次の科目である。新入生を、学問・研究に対する主体的、能動的な意識と姿勢へと導くことを目標とする。

外国語科目

現代社会では、英語文化圏に限らず他の文化とのコミュニケーションを図る場合、まず必要とされるのが英語運用能力である。本学では全学科の学生に対して、「英語」科目群を設けて、英語を必修科目としている。

日常生活での意思伝達の域を越えて、書かれた文献が正しく読め、比較的高度な情報も理解でき、自らもそれを発信できる程度の英語運用能力の習得を目指す。さらに、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮・韓国語、イタリア語、ギリシア語、ラテン語、ロシア語を選択科目として学ぶことができる。

情報科学科目

情報科学科目は、現在の情報化時代に適応し、豊かな知的・社会的な環境を構築するために必須のものと考えて設けられている。基本的なコンピュータ運用能力と情報倫理・マナーを習得し、本学のネットワーク利用に必要な知識を学ぶ。

「心身の健康」科目

学生時代の日常生活においても、卒業後の人生においても、「こころ」の健康と「からだ」の健康は、生き生き

5 情報科学科目（2021（令和3）年度以後入学者）

情報科学科目の履修

学生は、表5-1にしたがって、情報科学科目の必修科目を3単位修得しなければならない。

情報科学科目の選択科目の単位を修得した場合、「選択科目」（自由選択科目）（73ページ）として履修すべき単位に数えることができる。

表 5-1 情報科学科目表

区分	年次	科目名	単位
必修	1	情報科学入門 1a, 1b	各 1
		情報科学入門 2	1
必修科目の単位数合計			3
選択	2~4	情報科学 1a, 1b, 1c, 1d, 2, 3a, 3b	各 2
		情報科学特別演習 1, 2, 3, 4, 5, 6	各 2

必修科目履修上の注意

- 「情報科学入門 1a,1b」は 17 クラス設置される。
 - 定められたクラスに出席すること。各学生が履修すべき「情報科学入門 1a, 1b」のクラスは、4 月はじめに配布される必修科目表に記されている。
 - 基礎グループは、初心者や苦手意識をもつ学生を対象にしたグループである。授業内容は一般グループとほぼ同じだが、個別指導がより行き渡る条件で学習を進める。また、応用グループは、すでにこの授業科目で扱う内容を学習し終えた学生を対象としたグループで、一般グループの授業内容を一部省略し、より実践的な状況の中で学習を進める。必修科目表で一般グループの履修を指定された学生であっても、教育・学修センターまたは授業担当教員に事情を申し出れば、履修するグループを基礎グループもしくは応用グループへ変更することが認められる場合がある。
- 「情報科学入門 1b」を履修するためには、「情報科学入門 1a」を修得済みでなければならない。
- 「情報科学入門 2」は定められたグループに出席すること。各学生が履修すべき「情報科学入門 2」のグループは、4 月はじめに配布される必修科目表に記されている。2 年次以上で、「情報科学入門 1a,1b」および「情報科学入門 2」の単位を未修得の者は、それぞれの科目を履修しなければならない。
- 「情報科学入門 1a,1b」を再履修する者は、原則として(14)グループを履修すること。ただし他の科目との重複などにより本クラスの履修が難しい場合には、学務課にて相談すること。

選択科目履修上の注意

- 「情報科学特別演習 1~6」は、それぞれ指定された検定試験に合格した学生に対し所定の単位が与えられる科目である。
 - これらの科目の単位修得を希望する場合は、4 月に科目登録をすること。後期の追加登録はできない。ただし、4 年次生に限り、後期追加登録を認める。
 - 2022(令和4)年度に行われる検定試験に合格した場合に、それぞれの試験に該当する科目の単位が与えられる。また、本学入学後で 2021(令和3)年度に実施されたこれらの試験で合格した場合にも 2022(令和4)年度に科目を登録すれば、本年度の単位が与えられる。
 - 合格証明書を指定された期限までに学務課へ提出すること。提出が遅れた場合には、本年度の単位は修得できない。
 - 成績通知は通年科目と同じ時期である。
- 詳細はシラバスを参照すること。

7 教養科目 (2021 (令和3) 年度以後入学者)

教養科目の履修

学生は、表 7-1 の教養科目、「建学の精神」選択科目 (94 ページ)、キャリア教育科目 (105 ページ) から 16 単位以上修得しなければならない (以下、教養科目等)。

教養科目等から 17 単位以上修得した場合、16 単位を超えた分は、「選択科目」 (自由選択科目) (73 ページ) として、履修すべき単位に数えることができる。

表 7-1 教養科目表

区分	年次	科目名	単位
選択	1~3	知的探求の方法 1, 2	各 2
		名著・名作を読む 1, 2	各 2
		文章力養成	2
		口頭表現力養成	2
		2・3	ホスピタリティ
	1~4	ボランティア	2
		地域協力演習	2
		言語学	2
		応用言語学	2
		社会言語学	2
		認知言語学	2
		文学 1,2	各 2
		表象文化論	2
		表象文化とジェンダー	2
		日本文化論	2
		日本芸能文化	2
		文化人類学 1,2	各 2
		西洋哲学 1,2	各 2
		東洋哲学	2
		心理学 1,2,3,4	各 2
		音楽 1,2	各 2
		西洋美術 1,2	各 2
		東洋・日本美術 1,2	各 2
		倫理学	2
		現代社会と倫理	2
		教育思想	2
		現代社会と教育	2
		日本国憲法	2
		法学 1,2	各 2
		暮らしの法律	2
		現代社会と法律	2
		労働と法律・会社と法律	2
		経済と法律	2
		経済学 1,2	各 2
		暮らしの経済	2

区分	年次	科目名	単位
選択	1~4	企業の経済活動	2
		現代日本の経済	2
		現代の国際経済	2
		マーケティング	2
		現代日本の政治	2
		現代の国際政治	2
		国際事情 1,2,3	各 2
		社会学	2
		暮らしの社会学	2
		都市社会学	2
		比較都市論	2
		ジェンダー学	2
		現代社会とジェンダー	2
		現代社会の諸相	2
		現代社会とメディア	2
		現代社会とテクノロジー	2
		現代社会と A I	2
		現代社会特別演習 1,2,3	各 2
		暮らしの科学(実験講座 キッチンサイエンス)	2
		暮らしの科学(実験講座 健康と環境)	2
		暮らしの科学(栄養学・基礎)	2
		暮らしの科学(栄養学・応用と実践)	2
		暮らしの科学(病気の予防)	2
		暮らしの科学(健康増進)	2
		暮らしの科学(身のまわりのサイエンス)	2
		暮らしの数理リテラシー ^{注1}	2
		暮らしの数理リテラシー ^{注2} II ^{注2}	各 2
		数理リテラシー	2
		統計分析	2
		科学史	2
		心身の医学 1,2	各 2
		実用数学特別演習 1,2,3,4	各 2

注 1 : 2021 (令和 3) 年度まで開講

注 2 : 2022 (令和 4) 年度より開講

清泉女子大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会規程

(目的)

第1条 清泉女子大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会(以下「委員会」という。)は、清泉女子大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(以下「プログラム」という。)に係る教育の推進、改善及び充実を図るため必要な事項を審議する。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- 1 プログラムの認定申請及びそれに関わる調査・研究に関する事項
- 2 プログラムの対象となる科目の授業の運営に関する事項
- 3 プログラムに係る学生の履修状況及び学修成果に関する事項
- 4 プログラムの自己点検・評価に関する事項
- 5 その他委員会が必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 1 副学長(教学担当) 1名
- 2 学務部長
- 3 学務課長またはそれに代わる学務課専任職員 1名
- 4 プログラムの対象となる科目を担当する教員の中から学長が指名する者 若干名
- 5 その他学長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

第5条 委員長は、第3条第1号の副学長とする。

- ② 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- ③ 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長により指名された者が代理する。
- ④ 委員長は必要に応じ、委員以外の関係者に会議への出席を求めることができる。

(会議)

第6条 委員会の会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

- ② 委員会の会議は、委員総数の過半数の出席によって成立し、議決を要する事項については、出席委員の過半数の同意を必要とする。なお、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務所管)

第7条 委員会の事務は、学務課が所管する。

- ② 委員会事務所管部署は、議事録を作成し、保管しなければならない。

附 則 1

この規程は、令和4年12月1日より施行する。

清泉女子大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会規程

(目的)

第1条 清泉女子大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会(以下「委員会」という。)は、清泉女子大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(以下「プログラム」という。)に係る教育の推進、改善及び充実を図るため必要な事項を審議する。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- 1 プログラムの認定申請及びそれに関わる調査・研究に関する事項
- 2 プログラムの対象となる科目の授業の運営に関する事項
- 3 プログラムに係る学生の履修状況及び学修成果に関する事項
- 4 プログラムの自己点検・評価に関する事項
- 5 その他委員会が必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- 1 副学長(教学担当) 1名
- 2 学務部長
- 3 学務課長またはそれに代わる学務課専任職員 1名
- 4 プログラムの対象となる科目を担当する教員の中から学長が指名する者 若干名
- 5 その他学長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

(委員長)

第5条 委員長は、第3条第1号の副学長とする。

- ② 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- ③ 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長により指名された者が代理する。
- ④ 委員長は必要に応じ、委員以外の関係者に会議への出席を求めることができる。

(会議)

第6条 委員会の会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

- ② 委員会の会議は、委員総数の過半数の出席によって成立し、議決を要する事項については、出席委員の過半数の同意を必要とする。なお、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務所管)

第7条 委員会の事務は、学務課が所管する。

- ② 委員会事務所管部署は、議事録を作成し、保管しなければならない。

附 則 1

この規程は、令和4年12月1日より施行する。

清泉女子大学データサイエンス・AI教育プログラム＝Seisen MDASH 2022・2023年度カリキュラムにおける概要と考え方

